

熊楠の家

世界を知り、森を歩き、
破天荒に生きた知の巨人・南方熊楠
故郷・和歌山での日々を
周囲の人びとを交え
人間味豊かに描く



- 南方熊楠
- 千葉茂則
- 松枝「妻」
- 中地美佐子
- 熊弥「長男」
- 大中耀洋
- 文枝「長女」
- 八木橋里紗
- 今野鶏三
- 佐々木研
- 山本哲也
- 境賢一
- 横島亘
- みやざき夏穂
- 天津民生
- 岡山甫
- 吉田正朗
- 本廣真吾
- 大野裕生
- 平野尚
- 保坂剛大
- 横山陽介
- 別府康子
- 船坂博子
- 望月香奈



Design:Taro Matsuyoshi

作 小幡欣治
 演出 丹野郁弓
 装置 勝野英雄 照明 前田照夫
 衣裳 緒方規矩子・宮本宣子
 音楽 池辺晋一郎 効果 岩田直行
 舞台監督 風間拓洋

熊楠の家

作—小幡欣治 演出—丹野郁弓

『熊楠の家』は戯曲の達人小幡欣治氏が、南方熊楠の後半生を人間味豊かに描き、第十九回菊田一夫演劇賞特別賞を受賞しました。「根岸庵律女」、「浅草物語」など小幡氏が劇団民藝に書き下ろした九作品のうちの記念すべき二作目。一九九五年初演の本作は二〇一七年に丹野郁弓の新演出で上演。熊楠とその家族たちに光をあてた、ユーモアあふれる評伝劇をお楽しみください。

欧米での研究から帰国した南方熊楠は故郷和歌山に戻り、「粘菌の宝庫」田辺で所帯を持ち、採集と研究に没頭します。大酒呑みて癪癪もち、裸で歩き回るなどの奇行に振り回されながらも、どこか憎めない熊楠を慕い支える妻の松枝や町の人たち。明治末、神社会社令が出されたことで、自然豊かな森が荒らされるのに憤った熊楠は反対運動に奔走しますが、役人を殴り監獄へ放り込まれてしまいます。その後、不思議な因縁から若き摂政（昭和天皇）に粘菌の標本の献上とご進講をする話を持ち上がります。摂政が、脳を患っている息子の熊弥と同年輩の研究者と知った熊楠は……

南方熊楠 [みなかた・くまくす]

1867(慶応3)年～1941(昭和16)年。博物学者、民俗学者、植物学者、特に粘菌の研究で知られる。和歌山市生まれ。小学生の時には百科事典を記憶して筆写するなど、超人的な記憶力の持ち主。19歳で渡米し遊学。キューバにまで足を延ばし植物採集を行った後、大英博物館などで研究を行う。

英「ネイチャー」誌への論文掲載は日本人最多の51回。33歳で帰国後は、和歌山県田辺市を拠点に在野の研究者として過ごす。多言語に精通し、幅広い研究分野から、「知の巨人」「歩く百科事典」などと称される。また神社会社政策に反対し、自然保護活動の先駆者としても評価が高い。



中地美佐子 松枝(妻)



八木橋里紗 文枝(長女)



大中耀洋 熊弥(長男)



千葉茂則 南方熊楠



別府康子



山本哲也



佐々木研



今野鶏三



船坂博子



みやざき夏穂



横島 亘



境賢一



望月香奈



吉田正朗



岡山南



天津民生



保坂剛大



平野尚



大野裕生



本廣真吾



横山陽介